

創建

そうこん

巻頭言：千葉正裕・1

卒業生の活躍紹介・2～3

Letter from Delft vol. 2：Sanjey PAREEK・4

JIA東北建築学生賞ほか／新任紹介・5

第55回日本大学工学部学術研究報告会・6

日本建築学会大会他発表論文・7

学術論文／教室ニュース・8

2012・12・10 VOL.47 NO.3 (通巻144号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

日本経済新聞社が主要30業種を対象に四半期毎に発表している産業天気図があります。2012年10～12月期の産業天気図予測は、晴れ＝0、薄日＝6、曇り＝13、小雨＝9、雨＝2。スマートフォンの販売が好調な通信は「薄日」、その恩恵を受ける形で電子部品・半導体は「雨」から「小雨」に改善されています。建設・セメント業を見ると「曇り」。今後、被災地の工事需要が一層伸びるであろうという期待は高まっているものの、建設資材および人材不足が大きな課題になっているため、「薄日」が差すまでにはまだまだ時間がかかりそうです。実際に、国土交通省がまとめた2011年度工事契約実績は前年度の26.9%の大幅増でしたが、入札辞退の件数に関しては12.1%増加していました。被災地での技術・技能者不足がその大きな要因を占めているものと思われます。

復興元年と位置づけられた2012年。人、地域、国をあげて、復興を礎にした事業が展開されています。しかし、現状は大変厳しいものです。いまだ被災3県のがれき処理は、8月末までで25%程度しか進んでおらず、原発の問題も含め、本当の意味での復興が始まるのは、2013年以降になりそうです。

国土交通省が10月7日に発表した2013年度予算の概算要求は、東日本大震災からの復興とともに、災害に強い国づくりに向けて全国の防災・減災対策を推進することに力点を置いたものでした。民間の知恵と資金を活用しながら、持続可能で活力ある国土・地域を形成し、デフレ脱却や経済活性化につなげていくという姿勢も見せています。公共事業のみならず、民間レベルでの耐震補強、防災対策、エネルギー確保など、住宅リフォーム関連の需要も高まりを見せ、建設業界の求人は増加すると見方が出ています。

こうした状況の中で、大学生の就職戦線にも追い風は吹くのでしょうか。

2012年3月卒業・修了者の就職状況を見ると、本学部全体の就職内定率は92%でした。先に発行された創建「平成23年度建築学科就職状況報告号」にも掲載された通り、建築学科においては復興特需の恩恵もあり、震災後の厳しい状況の中でも96%という実績をあげ、全国平均の93.6%を大きく上回る結果となりました。2013年3月卒業・修了生の就職活動も終焉を迎えようとしています。採用状況が変わったことで就職活動にも大きな影響を与えました。これまで10月から開始されていた企業の広報活動が2カ月遅れの12月からとなったのです。

建設業界の動向と就職戦線

教授 千葉正裕

就職活動期間が短縮されたことで、全国的にもハードルの高い大手企業へのエントリーを控え、中小・中堅企業へのアプローチを優先させる堅実志向にシフトしたようです。工学部でも復興に貢献したいという意識が強く、地元企業への就職を志望する学生が多く見受けられました。企業側の新卒採用意欲は前年よりやや上昇したものの、短縮された採用期間の中でも面接回数を増やしていることから、「質重視・厳選採用」の傾向は一層強くなっているものと考えられます。

その背景には、「社内ニート」も影響しているのではないのでしょうか。リーマンショックによる景気低迷以降、企業の生産活動が縮小して仕事が減ったことで、実際の常用雇用者数と最適な雇用者数の差が生まれ、内閣府の調査では今年9月時点で全雇用者の8.5%にあたる最大465万人

が「雇用保蔵」状態に陥っているというのです。また、職場では若手社員を育成する余裕がなくなり、放置されたままの「社内ニート」が増加に拍車をかける形となっています。企業もこれ以上「社内ニート」を増やしたくはないはず。そこで求められるのは、企業が育てるのではなく、“自ら育つ”人材というわけ。じっくり一人ひとりを分析し、そうした素養を持ち合わせているのかどうか見極めるため、ますます面接を重視していくものと思われます。

ではいったい“自ら育つ”人材が持ち合わせている素養とは何でしょうか。まずは、自分自身で問題、課題を見つけることができる能力です。与えられた仕事しかできないのではなく、自ら仕事を産み出すくらいの人間でなくてはなりません。次に、問題や課題に対しどのように対処するか、課題解決能力の高さが問われます。面接では「失敗した時にあなたはどのように乗り越えましたか」とよく聞かれます。失敗したことが問題ではなく、壁にぶち当たった時、どう対処できるのか、その人の技量を測っているのです。「若い時の苦勞は買ってでもせよ」という諺もあります。苦勞を経験せず楽に立ちまわれば、将来自分のためにはならないと論じているのです。困難なことにも逃げ出さず、敢えて挑戦していくくらいのモチベーションを持つ人間が、これからの時代には必要とされるのでしょうか。

建設業界の求人の売り手市場も、一過性のものでしょうか。復興事業が終わった頃には、「社内ニート」になっている可能性もあります。常に自分を高める努力をしていくことが大切です。特に、復興に貢献したい人には、やる気がある、元気があるだけでなく、さまざまな問題に立ち向かう勇気と課題解決能力を身につけてほしいと思います。

(広報担当)

卒業生の活躍紹介

サービス業・意匠設計職

若さ＝能力

竹ヶ原 雄



私は元々モノづくりや絵を描くのが好きではあったが、当初から設計事務所就職を希望していた訳ではなく、研究活動や先輩方との語らいの中で、今の生業の選択に至った。そのためオープンデスクやコンペの経験も無いままの入社であった。入社当初は、全ての作業が初体験であり、中途半端であった。建築家という言葉の持つ華やかなイメージとは真逆の、実に地道な作業、そして膨大な時間を費やしての検討を繰り返し、その結果、一つの作品が完成し、使われ始める。大半の期間が苦悩・葛藤との闘いではあるが、唯一無二、喜びを感じる瞬間は、引渡し時の施主の笑顔と感謝のお言葉である。本当にこの仕事が自分に合っているのかと、今でも自問自答することは数多いが、ではなぜ今でも続けられているのか。こんなエピソードがある。

入社間もない時期に、ある先輩からこんな一言を掛けて頂いた・・・“若いだけでも能力なのだよ”と。そして、入社2ヶ月を過ぎた頃、コンペの現地調査を一人で体験した。当初、先輩と二人の予定であったが、出発の朝、急遽別件対応のため同行できないとの連絡。先輩不在の中での重責である。当時の自分に考えられる全ての事をした。写真を撮り、現況建物をヒアリングし、街中を散策し、周辺の雰囲気や身体に染込ませた。

実際の敷地を体感したのは私一人。誰から指示された訳でもなく、現調した当事者の想いとして、提案の背骨となるコンセプトを練り上げた。当然と言えばそうなのだが、今思うと、かなり無謀な行動であった。結果、当社の提案は次点であったが、コンセプト自体は発想が面白く、着眼点も新しいとの評価を受けた。まさに若いだけでも能力という言葉が具現化された出来事であった。

若い世代の持つ新しい発想や知らないと言うことを行動力に変える力、それこそが重要であり、それ以外の内容は極端な話、働いてから学べば良いと思っている。若さを活かすこと、何事においても決して諦めないこと、そして挑戦し続けること、このことを念頭に、入社10数年来の今の私がいる。既に若いという世代ではないが、いわゆる日大イズムに潜在的に潜むであろう、考え方に対する若さは今でもフル活用し、挑戦し続けている。

就活を始める学生の皆様、若さの持つパワーは無敵大。膨大な情報や日々進化し続けるツールを身近に感じ、しかも身軽に使いこなせる今の世代（若さ）の能力を信じ、新たなステージに羽ばたいて欲しい。
(たけがはら たけし)

略歴

1999年 博士前期課程建築学専攻修了（佐藤研究室）

1999年 株式会社佐藤総合計画入社



公立岩瀬病院 完成模型

2013. 11 完成予定



仕事風景

総合建設業・施工管理職

現場監督

横尾 忠幸



小さい頃から物を考えることが好きで、漠然と何かを作る職業に就きたいと考えて、建築学科に進学しました。郡山で充実した学生生活を終えて、東京の建設会社に就職をしました。

最初の2ヶ月は研修を行い、実際に現場に配属されると、毎日、職人さんに質問を投げかけられ、それについての解答を調べる、考える、上司に確認を取る、それを職人さんに伝える、その結果を確認する。その繰り返しの毎日でした。10人居れば10個以上の解答がある場合もあり、最初は怒られてばかりでしたが、次第にそれも短時間で自分なりの解答が導き出せるようになり、最初の現場が完成しました。実際、その建物に関して、壁紙を貼った訳でもなく、塗装をした訳でもないですが、自分が作った作品との意識がとても高く、充実感に溢れていたのが思い出されます。その後、何度かその現場に足を運ぶ機会があり、今ならきっとその時よりも上手に現場を進めて行けたらと思うのですが、その現場をやっている時は非常に辛かったりもしたのですが、その時の職人さんや上司と会うと、その時の工事の話で盛り上がります。

今は、改修現場といわれる現場にいます。新築現場といわれる何もかもが新しい所から現場を作り上げるのではなく、今ある躯体等を生かしながら解体工事を行い、そこに新たに、耐震補強躯体、設備機器設置、内装仕上げを行っていきます。この現場では、一番重要になるのは、お客様目線で工事を外から考えてみることだと言われました。どうしても、工事をしていると色々な人に迷惑を掛けてしまいますが、それをいかに軽減させることができるかが、改修に携わる現場監督の責務の一つになります。

建築現場では、一つのことを行うのにも大きなリスクを伴う場合があります。そのリスクをいかにして、軽減させるかがとても重要となり、色々な工法の中から、最適な工法を選択していきます。その工法を考える手段として重要なのは、経験そして如何にその状況を想像できるかだと思います。経験は実際に体験してみないとだめですが、想像力は学生時代にでも身に付けることが可能だと思います。普段から何故こうなっているのか考える癖をつけてみると、実際どんな仕事をしていく上で大変役に立つことだと思います。是非とも学生時代に実践してみてください。

(よこお ただゆき)

略歴

2002年 博士前期課程建築学専攻修了（千葉研究室）

2002年 清水建設株式会社 入社

住宅産業・施工管理職 「家」を建てる

壁下瑛里子



私は注文住宅の施工管理の仕事をしています。施工管理の仕事に就いてから、何軒かのお家を担当させて頂きました。その中の一軒をご紹介します。

誠実で温かみのある人柄のご夫婦でした。私は営業や設計、またお客様自身からどれだけその家づくりを楽しみにしているかを聞いていました。そのお客様は心から私たちを信頼し、家づくりを任せてくれていました。私は施工管理として工事現場に関わる中で、職方にできるだけお客様の想いや人柄を伝えました。職方が住まい手を意識して仕事をしなければ、いい家はできません。職方も皆、住まい手の喜ぶ顔が想像できれば、自然に仕事にも身が入ります。

暑い夏場の工事でした。基礎屋さんや大工さんも、工事に関わる何十人という人が皆、炎天下の下、毎日汗だくで仕事をしていました。暑さの中での肉体労働は、集中力も切れ、文句も言いたくなり、生き生きと作業する余裕なんてありません。しかし皆、職人気質。私からお客様の話を聞き、その期待を汲み取り、前向きな気持ちで張り切って作業を進めてくれました。当然、現場の雰囲気も明るくなります。そんな日々の作業を見ていたお客様から、「ありがとう。みんな、こんなに一生懸命つくってくれて。この家、大切に住むね」。

施工管理は建築物の品質をきちんと確保し、工期通りに工事が進むように管理するのが仕事です。しかしそれだけではなく、お客様の声を現場に伝え、現場の想いをお客様に届けられるポジションでもあると思っています。お客様にとって「家」は、自分たちだけの特別な場所です。私はそこに気持ちを込めて、設計から現場まで、すべてのつくり手からの目には見えない付加価値をプラスして、家づくりをしたいと思い仕事に臨んでいます。

私は学生時代、自分が工事現場で仕事をするなんて想像もしていませんでした。しかし今、かけがえない貴重な経験をさせてもらっています。

また現在、私は一級建築士の取得に挑戦しています。今までも幾つかの資格を取得しましたが、それぞれの資格を通して得られた知識は仕事をする上で大変役立ち、仕事の幅を大きく広げてくれています。今後も自分の可能性を伸ばしていくために、資格取得はとても意義のあることだと思っています。

学生の皆様へ。建築物もいろいろ、使う人もいろいろ、自分がどう関わっていくのかもいろいろです。広い建築の世界、どの入り口から入り、どこを通り、何を目指しても遠回りではないと思います。ぜひ何にでも興味をもって接し、沢山のことを吸収することをお勧めします。

(かべした えりこ)



略歴

- 2009年 建築学科卒業
(市岡研究室)
- 2009年 スウェーデンハウス
株式会社入社

公務員・技術（建築）職 公務員の仕事の実態

山崎 拓



私は、高校卒業以来ずっと地元を離れ、大学院を修了後も東京で就職し、民間企業でコンストラクションマネジメント業務や、マンション建替えのコンサルタント業務をしていました。それまで公務員になろうと考えた事はありませんでしたが、4年前に長野県職員の採用試験を受け公務員になりました。

公務員は暇で楽な職場と思っている方もいると思いますが、残念ながら私の職場では当てはまりません。

県の職員は大きく分けて事務職と技術職があり、事務職は広く浅く何でもこなす仕事、技術職は狭く深く専門的にこなす仕事を担当します。長野県では、建築の技術職員は、主に住宅課、建築指導課、施設課、県内10所の出先機関に配属され、県営施設の発注、設計、施工管理、県営住宅等の管理、建築指導等の仕事を行っています。私はその中の出先機関である地方事務所に所属しています。

一般的に、建物を建築する際は、設計内容が建築基準法に適合しているか建築主事等の確認を受けて着工し、工事完了後に完了検査を受けて引渡しになります。その建築確認審査や現場完了検査を行うのが主な仕事です。全国的には確認審査業務の8割以上を民間確認審査機関が行っていますが、長野県では5割程度に過ぎないため、他県に比べ行政の確認申請業務のウェイトが大きく、現在、私が担当している確認審査は年間500件超です。その他に都市計画法の開発許可等の許認可業務、防災点検、違反建築物の取り締まりなど、法律に則った許可や指導を行っています。

設計や施工の仕事と違って、目に見える成果がない地味な仕事ですが、住民が安心して暮らしていくために建築物に必要な最低限の基準である建築基準法を所管し、地域の安全安心を支えている重要な仕事です。

女性の技術職員も活躍しており、私の同期の建築技術職員の半数は女性です。育児休暇や休職・復職への環境は民間企業に比べて整っています。

民間企業と公務員は確かに違いがあります。しかし、建築の技術を活かす仕事であれば大きくは違いません。就職先の選択肢のひとつに公務員も考えてみたらいかがでしょうか。

ここで紹介した仕事は一例で、他県や市町村とは違うかもしれませんが、公務員の仕事の実態として、少しでも就職活動の参考になれば幸いです。
(やまざき たく)

略歴

- 2000年 博士前期課程建築学専攻修了(若井研究室)
- 2000年 ㈱高輪建築計画総合研究所入社
- 2008年 日建設計コンストラクション・マネジメント
㈱入社
- 2009年 長野県庁入庁

Letter from Delft vol. 2

TU Delftにおける研究活動について

准教授 Sanjay PAREEK

オランダも秋が終わりを告げ、日一日と寒さが厳しくなってきました。そして私の出張期間も残すところあと二ヶ月半となりました。そこで今回は、デルフト工科大学 (TU Delft) についてと若干自分の研究活動について報告させていただきます。

デルフト工科大学は1842年に創立されたオランダで最も古く、かつ最大規模の国立大学です。全て8学部38部門の学科と大規模、且つ高水準の研究と教育を背骨にしてオランダ国全ての工学系の大型事業及び、国際的にはEU連合の主要なプロジェクトに重要な役割を果たしています。日本人に馴染みのあるShell, Unilever, INGGroup, TNO, Heinekenなどの大手企業と産学連帯構想における、TU Delftで基礎的研究を推進し、応用・実用化に向け技術移転に関して大きな社会的役割を果たしています。オランダは国土全体の約25%が低地海面下であるため、Civil Engineering (土木工学部) 部門は非常に重要な学問とされており、TU Delftでは8部門に分れています。私が所属するMICROLABはその中のMaterials and Environment部門に属しています。

このMICROLABにはコンクリートの微視的構造を中心にセメントの水和反応機構を元に構造全体の寿命を予測できる数多くの化学分析装置と力学性質を調べるために最新のNano-Indenter及びNano-Scratch Analysisによる材料の性質を調べる事ができます。研究室はKlaas van Brugel教授、Erik Schlangen教授のほか、Post-Doc. やPh. D. のスタッフが50名程在籍しており、Erik Schlangen教授を中心に数多くの研究プロジェクトが進められています。また、精密実験装置・機器の維持管理を行うため3名ほどの技官が在籍していることにより、実験を円滑に行うことができます。建築実験を多く行っている私から見ても、このような技官制度を日本大学工学部でも取り入れることで、数多くの同様の機械の危機管理を一括化することによって、機器備品の維持管理費が削減でき、常時整備された安全な環境の中、実験などが行えると感じました。

さて、MICROLABの最も中心的な研究テーマは自己治癒コンクリート系材料です。自己治癒材料は大型国家プロジェクトとして推進され、10数テーマで国費Ph. D. の院生が研究を進めております。中でも最も注目を浴びているDr. Henk Jonkers氏が行っている、バクテリア混入コンクリートであります。先日BBC (英国放送局) テレビでも着目され、この自己治癒コンクリートについて放送されました。このコンクリートにひび割れが生じて中に酸素と水が浸入すると、バクテリアが活性化され、水と酸素が反応し炭酸カルシウムを生成します。その炭酸カルシウムがひび割れをふさぐと云う仕組みです。MICROLABではこの自己治癒コンクリートの開発に成功し、現在は実用化に向けて取り組んでいます。そこで、私が2月から8月まで一人の卒研生の研究指導者を務め、卒業研究のテーマとして「補修材の長寿命化を目指してバクテリア混入ポリマーセメントモルタルの開発」の実験を行いました。その結果、バクテリアコンクリートの作業性、接着力及び耐久性の改善に成功し、プレパッケージ型補修材を提案しました。これとは別に中国人、インドネシア人、クロアチア人の3人留学生のPh. D. の研究指導を行っており、自己治癒コンクリートについていろいろなアプローチを経験することができました。さらに、Ph. D. 院生の研究評議員として選抜され評価委員会に出席させて頂いております。また、5月に開催されたMICROLAB Colloquimへの招待講演を受け、日本大学工学部と私が行っている自己修復の研究について紹介させて頂きました。

オランダTU Delftで研究・自分の仕事を通して、オランダ人の愉快地に楽しみながら仕事を行う姿勢や、仕事・家族・趣味にバランスよく時間を使う姿勢に、彼らの生き生きとした明るい笑顔の秘訣を感じました。

写真上から順に 1 : 土木工学科校舎, 2 : Dr. H. Jonkers, Prof. K. van Bruegel, Prof. E. Schlangenと, 3 : Djamel君の卒業研究論文発表会後, 4 : 研究室の院生をDelft宅に招いた時, 5 : Dr. H. Jonkers宅で家族と食事会



第16回東北建築学生賞で奨励賞受賞

4年次生 中井 奨太

この度、第16回JIA東北建築学生賞にて東北専門新聞連盟賞奨励賞を頂きましたこと、誠に光栄に思います。今回の私の作品「水と暮らす つかずはなれず」は震災後も水産業を積極的に営みたいと考えている被災者のための復興のシナリオを、高台の開発と低地利用をセットで考え、生業も含めて建築的かつ時系列で提案しようと考えたものです。この提案に至った契機は、震災後に選定敷地である南相馬市原釜の沿岸部へ行った際に、津波によって住宅と職を一気に失った被災者の方々の意見を直接耳にした声からです。その後、何度も足を運ぶ中で、被災者の無念の気持ちの裏にある小さな希望と、それを直ぐには実現できないもどかしさを痛感しました。しかし、自分に今できること、つまり「海と共に暮らして来た方々は、海への憎しみや怖さを体験しても、一定の策を講じた上なら、離れずに暮らしたい人も多いのでは」という考えを、建築的提案にしようと思い立ちました。福島の場合は原発災害が大きすぎて、岩手や宮城と比べ中々焦点が当てられない漁業・漁港の復興シナリオの一例として、少しでも実際に役立つことを意識してまとめました。僅かでも、お話を聞かせてくれた被災者の方々への希望になればと考えております。

最後に、課題として取り組んだ授業や本コンクール提出に際して、締め切り間際まで先生方はじめ周囲にご指導・ご協力を頂きました。この場をかりて、御礼申し上げます。



作品模型写真

第9回「景観開花。2012」コンペ最終審査入選

大学院博士前期課程1年 佐久間皓惟
 研究生 近藤 拓馬・4年次生 阿部 慎也
 3年次生 佐藤 伸哉・樋口 卓史

「景観開花。2012（課題：未来へつなぐ防潮堤デザイン）」において、私たちの提案作品である「壁と生きる通り〜3つの壁による防潮堤との付き合い方」が、公開最終審査5作品に入選させて頂きました。審査委員長の篠原修先生や、審査員の五十嵐太郎・西村浩・福屋粧子の各先生方に評価されたことは大変嬉しく思います。

「景観開花。」は、様々な土木構造物をテーマに据え、多くの人々へ土木デザインの可能性を示すという目的のコンペです。昨年も「未来へつなぐ街路デザイン」に浦部研究室3名で応募し、特別協賛企業賞を頂きましたが、今年はより震災復興に近い内容ということで再度応募しました。

応募案は、いわゆる2線堤+1=3線堤で考え、堤防のスケールを段階的にするなど工夫し、土木構造物を身近に感じられるデザインとしました。徐々に復興に向けての取り組みが進む中で、今回の課題である「防潮堤」のあり方も本質から考えていくべきではないかと強く感じています。現実には難しい問題も多々あるでしょうが、現場を何度も見て、東北の地で考えた私たちのアイデアが、復興や今後のより良い景観づくりの一助となることを願っています。

12月8日に開かれる最終審査会で各賞が決まる予定ですが、他案に見劣りしないように準備して、審査会に臨みたいと思っています。

最終審査にて、佳作とヨシモトポール賞（特別協賛企業賞）を受賞



作品模型写真

第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション2012で優秀賞受賞

4年次生 阿部 慎也・佐藤 雄太

第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション2012のテーマは、「1個人または1家族が使用できる避難シェルターをデザインする」で、私たちは「応急箱～受け継がれていく思想～」というコンセプトで作品を制作し応募しました。

今年度の課題は、昨年の東日本大震災で感じた想いや経験を忘れることなく将来に生かしてもらいたい意味を含め、「避難シェルター」をキーエレメントとしたということです。私たちも2011年3月11日、それぞれの土地で被災し、いたたまれない数週間を過ごしました。さらに、研究室内においても震災後の復興支援活動プロジェクトが幾つも立ち上がっており、そのうちいくつかに関わる中で、被災した方々の生の声を聞いたことが、コンペを推し進め提案をまとめる原動力となりました。

私たち「応急箱」は、世界共通規格であるコンテナを利用して中に「入れ子」のような可動できる箱を挿入し、コンテナの致命的な欠点である、温度変化がダイレクトであることと狭さを改善し、さらに入居者自身が季節や状況に合わせて自在に変形させることにより、生活を豊かにすることができ避難シェルターです。今後も起こりうる大災害のことを考えたくはありませんが、私たちの提案が国内はもとより世界各地での防災や災害後の避難生活改善の一助になればと考えています。



作品模型写真

新任の先生

非常勤講師 鍋田 知宏

担当科目：建築造形演習

日本大学工学部の皆様、はじめまして。9月より、建築造形演習の授業を受け持つようになります。私は、日本大学芸術学部で、建築設計やデザインを学び、大学院で造形芸術建築の修士を修了しながら、黒川雅之の元で5年間働き、独立し、今に至ります。在職時には、公共建築の設計や住宅、プロダクトデザインや企画プロデュースなど、幅広い業務に関わってきました。独立後は、専門学校や日本大学芸術学部建築にて、デザインや設計の授業を持ち、自身の顧問先の企業や住宅メーカーと共に、産学の試みも行っております。

私は、全ての根本には「デザイン」があると考えています。その「デザイン」というプラットフォームの上に、建築も、プロダクトもグラフィックもあり、さらには食や服飾、医療やサービスなど、様々な窓口があるものだと考え、日々仕事をしております。なので、建築設計もプロダクトデザインも、縮尺と機能が違うだけで、根本は、同じだと考えています。

造形演習の授業では、「イメージ力と、そのイメージの伝達力の育成」を基本としています。いかに、自身の身体で感じ消化し、他人に伝える事が出来るか？が、とても重要です。殆ど全ては、イメージ力が支えていると思っております。これが良い！、こう在りたい！、こんな生活が良いと思う！…など、このイメージ力こそが、人間が何かを行う上で、とても大きな機動力になるのです。

そして、その漠然とした全体と実際にそれを実行させる詳細のイメージがあって、はじめて何か…が、形になって行きます。そして、イメージ力とは「方針や思想、哲学」だと思えます。その思想哲学を、他人に伝え、形にして行く事の大切さを、理屈だけではなく、身体を使って身につけて行って欲しいと思っています。



第55回日本大学工学部学術研究発表会〈建築学部会〉

日時：平成24年12月1日（土）

〈第1会場：7033教室〉

- ・既存はり継手の耐震補強方法に関する実験 ○本田優，浅里和茂，千葉正裕，日比野巧
- ・躯体RC・鉄骨置屋根形式体育館の耐震性能 ○日隈宏法，浅里和茂，千葉正裕，日比野巧
- ・日本大学工学部図書館における耐震補強効果の検討 ―その1. 耐震改修計画および接合部における振動性状― ○森玄樹，千葉正裕，浅里和茂，日比野巧，江原修
- ・日本大学工学部図書館における耐震補強効果の検討 ―その2. 各階における振動性状― ○江原修，千葉正裕，浅里和茂，日比野巧，森玄樹
- ・NURBSによる形状関数を用いた有限要素法における梁要素に関する研究 ○関根秀一，Buntara S. GAN
- ・動的縮小法に関する理論的研究（1）（減衰マトリックスがない場合） ○倉田光春
- ・RC構造物用補修材料としてのカルシウム系防せい剤混入断面修復材料のマクロセル腐食抑制効果の検討
―その1 断面修復材料の防せい性― ○齋藤俊克，飯野将広，渡辺宗幸，出村克宣
- ・RC構造物用補修材料としてのカルシウム系防せい剤混入断面修復材料のマクロセル腐食抑制効果の検討
―その2 断面修復部を模擬した供試体による防せい性評価― ○飯野将広，渡辺宗幸，齋藤俊克，出村克宣
- ・エマルジョン処理竹補強材を3層に設置して補強した竹補強セメントモルタル板の曲げ性状 ○木村彰吾，齋藤俊克，出村克宣
- ・ビニロン補強セメントモルタルを結合材として用いた繊維補強ポラスコンクリートの曲げ性状 ○十文字拓也，齋藤俊克，出村克宣
- ・ネットワーク及び補修剤を用いた自己修復システムの非破壊試験によるコンクリートひび割れの自己修復性の評価 ○大平旭洋，三浦裕騎，Sanjay PAREEK
- ・Cu-AL-Mn超弾性合金を用いたコンクリート梁ひび割れ自己修復システムの適用性 ○三浦裕騎，Sanjay PAREEK，大平旭洋，荒木慶一，Kshitij C. Shrestha，鈴木裕介
- ・CO₂削減を目的としたインド及び日本産フライアッシュを用いた無焼成レンガの圧縮強さに及ぼす影響 ○齋藤雄仁，Sanjay PAREEK
- ・建築用内装仕上げ材の防火性能に関する研究 ○安藤祐太郎，Sanjay PAREEK
- ・鋼製永久型枠を用いたRC造梁部材の寸法効果に関する研究 ○遠藤正美，鈴木裕介，Sanjay PAREEK

〈第2会場：7034教室〉

- ・住宅の評価に関する研究 ―光と体感について― ○渡邊絢，倉田光春
- ・子どもを対象とした屋内遊び場の使われ方に関する一考察 ○高守留珠，若井正一
- ―福島県内に立地する「屋内子ども遊び場」の実態調査― ○矢吹朋之，市岡綾子
- ・公立小学校の設計プロセスに関する研究 ―S市立A小学校のケーススタディー
- ・ローマの街路空間における探索歩行時の注視に関する研究 ―経路選択と探索行動について― ○薄井謙，三浦金作，土方吉雄
- ・フィレンツェの街路空間における昼夜歩行時の注視に関する研究 ―注視傾向について― ○松江宜彦，三浦金作，土方吉雄
- ・公園内におけるスツールの設置方法に関する研究 ―公園利用とスツール利用への放射線による影響― ○青木敦生，土方吉雄，三浦金作
- ・地方都市における中心市街地の緑化手法に関する研究 ○阿部純也，土方吉雄，三浦金作
- ・児童の遊び場に関する調査研究 ―下校路特性と遊び行為の関連― ○大貫恵司，土方吉雄，三浦金作
- ・まちなみ景観の色彩コントロールに関する研究 ○高橋康弘，土方吉雄，三浦金作
- ・ワークショップ形式による景観まちづくり協定の策定に関する研究 ○大佐古和明，土方吉雄，三浦金作
- ・大規模な人間空間における利用状況の予測に関する基礎的研究 ○野内英治
- ―学生食堂の利用状況調査とオートマタ理論によるシミュレーション―
- ・勤務時における病院建築内の医師の移動に関する研究 ―地方の中核的病院を対象とした研究― ○遠藤安泰，浦部智義，山口敏弥，大石祐太
- ・プロセニウムを持つ劇場・ホール施設の舞台計画に関する研究 ○高木義典，浦部智義
- ―新国立劇場開館以降の劇場・ホール施設を事例として―
- ・東北6県に現存する能楽の運営と実態について ○沼尾圭亮，渡邊洋一，浦部智義
- ―東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間と役割についての研究―
- ・「ロハスの家3号」の室内における快適性の研究 ○浦部智義，三浦洵，長内勇樹
- ―室内における官能評価と温熱環境要素の関係性の分析―
- ・音楽練習室の音響特性に関する研究 ―拡散体が残響時間に与える影響― ○江積亮平，濱田幸雄
- ・レーザードップラー振動計の応用研究 ―道路橋の固有振動数の測定― ○須藤剛史，濱田幸雄
- ・生体音響信号の測定・分析手法の研究 ―マイクロホン内蔵膜型聴診器の試作― ○多喜翔一，濱田幸雄
- ・床衝撃音の評価方法に関する研究 ―聴感実験用試験音の作成及び特性の分析― ○永澤駿，濱田幸雄
- ・共同住宅における生活騒音の実態とTNELによる評価 ○橋本博貴，濱田幸雄

学 会 発 表

* 届け出があった記事を掲載

■2012年日本建築学会大会

日時：平成24年9月12日～14日 会場：名古屋大学(愛知県)

- ・ビニロン繊維補強セメントモルタルを結合材とした繊維補強ポーラスコンクリートの曲げ性状
○十文字拓也・齋藤俊克・出村克宣
- ・カルシウム系防せい剤を用いた鉄筋防せいペースト及び断面修復モルタルの防せい性
○飯野将広・渡辺宗幸・齋藤俊克・出村克宣
- ・竹補強セメントモルタルの曲げ性状に及ぼす竹補強材のエマルジョン処理効果
○木村彰吾・齋藤俊克・出村克宣
- ・超重量コンクリートを用いた放射能による汚染物格納容器の開発
○鈴木裕介(京都大)・木村健一・李有震・Sanjay PAREEK・荒木慶一・藤倉裕介
- ・CO₂削減を目的としたインド及び日本産フライアッシュを用いた無焼成レンガの圧縮強さに及ぼす影響
○齋藤雄仁・Sanjay PAREEK
- ・ネットワーク及び補修剤を用いた自己修復コンクリートの繰り返し修復に関する検討
○大平旭洋・三浦裕騎・Sanjay PAREEK
- ・Cu-Al-Mn超弾性合金を用いた自己修復コンクリートの基礎的研究
○三浦裕騎・Sanjay PAREEK・荒木慶一・Kshitij Shrestha・大平旭洋
- ・地震被害を受けた中層RC造建物における立体振動性状
○江原修・千葉正裕・浅里和茂・日比野巧
- ・住宅の昼光照明と体感に関する研究
○渡邊絢・倉田光春
- ・児童の歩行・走行・飛び跳ね行為の衝撃力特性
○濱田幸雄
- ・プロセニウムを持つ劇場・ホールの管理・運営に関する研究 ー公立文化施設を事例としてー
○高木義典・浦部智義・幸和紀
- ・東北6県における野外舞台建築・芝居小屋の分布状況と現況
ー東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の実態と役割について その1ー
○渡邊洋一・浦部智義・沼尾圭亮
- ・福島県に現存する歌舞伎の現在の運営と実態についての調査
ー東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の実態と役割について その2ー
○沼尾圭亮・浦部智義・渡邊洋一
- ・病院内の医師の移動とその意識に関する研究 ーその5ー
○遠藤安泰・浦部智義・上野佳奈子・中山誠健・太田亮平
- ・自動ドアにおける歩行者の通過行動特性に関する検討 ー開き始めのタイミングと歩行動作の関係ー
○若井正一
- ・東日本大震災の被災状況と公共施設に対する住民意向 ー福島県須賀川市における現況報告ー
○矢吹朋之・市岡綾子
- ・ベトナム北部の木造遺構と家形土製品の関連性について
ー仏教寺院建築と陳朝時代の出土遺物の校正・意匠の比較をとおしてー
○大山亜紀子
- ・公園における移動スツール設置方法に関する研究 ーその1 移動スツールの利用と有効性ー
○大佐古和明・青木敦生・土方吉雄・三浦金作
- ・公園における移動スツール設置方法に関する研究 ーその2 移動スツールの形状と利用の関連ー
○青木敦生・大佐古和明・土方吉雄・三浦金作
- ・児童の下校路における遊び行為に関する研究 ー市街地特性と遊び行為の関連ー
○大貫恵司・土方吉雄・三浦金作
- ・ローマの街路空間における探索歩行時の注視に関する研究 ーその1 経路選択と探索行動についてー
○薄井謙・三浦金作・土方吉雄
- ・東日本大震災における避難所の運営実態と空間利用 ービッグパレットふくしまをケーススタディとしてー
○高橋康弘・土方吉雄・市岡綾子
- ・郡山中心市街地における被災建物所有者の建物更新意向
○阿部純也・土方吉雄・三浦金作
- ・住宅用火災警報器の設置率のための調査地域および階級区分に関する研究
○佐藤博臣(ビューローベリタスジャパン(株))・栗岡均
- ・既存共同住宅の住宅用火災警報器の設置率
○栗岡均(日本消防検定協会)・佐藤博臣

■平成23年度日本火災学会研究報告会

日時：平成24年5月21日～22日 会場：宇都宮東武ホテルグランデ(栃木県)

- ・住宅用火災警報器の設置普及の地域性の検討
岡泰資, 佐藤博臣, 栗岡均, 村上史朗
- ・住宅用火災警報器の設置普及に及ぼす心理的な特性に基づく階層化の検討
佐藤博臣, 岡泰資, 栗岡均, 村上史朗
- ・住宅用火災警報器の設置状況の時系列的検討
村上史朗, 岡泰資, 栗岡均, 佐藤博臣
- ・既存戸建住宅の住警器の需要モデル
栗岡均, 岡泰資, 佐藤博臣, 村上史朗

■日本造園学会東北支部第11回支部大会

日時：平成24年10月13日～14日 会場：郡山市ビッグアイ 市民交流プラザ

- ・須賀川市中心市街地における土蔵の被災と修復状況
○矢吹朋之, 市岡綾子
- ・郡山市中心市街地における土地利用に関する研究
○阿部純也, 土方吉雄, 三浦金作
- ・児童の遊び場に関する調査研究 ー下校路特性と遊び行為発生ー
○大貫恵司, 土方吉雄, 三浦金作
- ・東日本大震災に関する全国学生デザインワークショップ Fチーム成果報告『ぐるり藤田郷』
○大佐古和明, 矢吹朋之, 松永一秀, 三村俊裕, 磯野綾介, 目黒しおり

■2012年10月度日本音響学会 建築音響研究会

日時：平成24年10月13日 会場：東京電機大学北千住キャンパス(東京都)

- ・医師の立場からみた病院建築の要件に関する研究 ー診察室の音環境に着目した調査結果ー
○三浦吉博(明治大), 上野佳奈子, 遠藤安泰, 浦部智義

■2012日本インテリア学会大会研究発表会

日時：平成24年10月28日 会場：東北文化学園大学(宮城県)

- ・子どものための屋内遊び場の利用実態に関する検討 ー福島県に立地する「屋内子ども遊び場」についてー
○高守留珠, 若井正一

学 術 論 文

* 届け出があった記事を掲載

- ・木村彰吾, 齋藤俊克, 出村克宣; 「エマルション処理竹補強材を用いた竹補強セメントモルタルの曲げ性状」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 34, No. 1, pp. 1456-1461, July 2012(コンクリート工学年次大会2012)
- ・十文字拓也, 齋藤俊克, 出村克宣; 「結合材をピニロン繊維補強セメントモルタルとした繊維補強ポーラスコンクリートの機械的性質」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 34, No. 1, pp. 1462-1467, July 2012(コンクリート工学年次大会2012)
- ・飯野将広, 齋藤俊克, 出村克宣; 「各種表面含浸材の低圧・高圧水下における透水に対する抵抗性」, コンクリート工学年次論文集, Vol. 34, No. 1, pp. 1612-1617, July 2012(コンクリート工学年次大会2012)
- ・村上史朗, 岡泰資, 栗岡均, 佐藤博臣; 「住宅用火災警報器設置の抑制要因の検討」, 奈良大学紀要, 第40号, pp. 137-148, Mar. 2012
- ・清家美帆, 栗岡均, 川端信義; 「Investigation of the Characteristics of a Large Planar Space Fire using 3-D CFD Analysis」, International Congress FIRE COMPUTER MODERINING, pp. 287-298, 2012
- ・栗岡均; 「防火設備と現実的な防火対策の俯瞰」, 第3回防火研修会「特養老人介護施設で火災が発生したら」研修会資料集, pp. 16-19, Mar. 2012
- ・栗岡均; 「火災事例に見る教訓と防火対策」, 第4回防火研修会「高齢者施設の夜間の火災安全確保について考える」研修会資料集, pp. 7-16, Sep. 2012
- ・栗岡均; 「火災事例に見る教訓と防火対策」, 第5回防火研修会「社会福祉施設の夜間の火災安全確保について考える」研修会資料集, pp. 10-21, Sep. 2012
- ・市岡綾子; 「東日本大震災後の須賀川市における住民協働による景観まちづくり」, 日本建築学会大会都市計画部門パネルディスカッション「景観の計画的リビジョン4」資料, pp. 35-36, Sep. 2012

■**バリーク准教授**と**熊田慶樹君**(H23度バリーク研・院卒), **大平旭洋君**(バリーク研・M2)は, 東北大学西脇智哉准教授とともに, 5月8日, 日本コンクリート工学会(JCI)東北支部より, 「連結材ユニットを用いた自己修復コンクリートのRC構造物への適用に関する実験的検討」と題した論文が論文賞を受賞された。

■**阿部直人非常勤講師**は, 日本建築学会東北支部より, 東北建築賞作品賞選考委員を委嘱された。

■**渡部和生非常勤講師**は, 福島県より福島建築文化賞審査委員を委嘱された。

■**浦部准教授**は, 7月2日, 日本ログハウス協会より「地域型住宅づくり支援事業検討委員会委員」を委嘱された。

■7月12日, 日本建築学会より平成24年度優秀修士論文賞を以下の2名が受賞し, 9月12日, 日本建築学会大会において表彰された。

春日太郎君(H23度速水研・院卒)
論文名「中世禅宗様における中国様式の変容
—尾垂木の力学特性を中心に—」

早川真介君(浦部研・研究生)

論文名「木造仮設住宅の計画特性に関する研究
—東日本大震災後の福島県内の仮設住宅を対象とした考察—」

■**浦部准教授**は, 7月12日, 本学部50周年記念館で行われた平成24年度第1回環境保全共生科学技術研究会「福島県の復興を支えるロハス工学の取り組みについて」(主催:郡山地域テクノポリス推進機構, 日本大学工学部工学研究所)において「復興を支える環境共生の住環境」と題して講演した。

■**土方准教授**と**土方研究室**は, 白河市金屋町・愛宕町・大工町通り景観まちづくり協議会より景観協定締結活動支援を依頼され, 7月23日, 9月13日, 11月19~21日, 景観まちづくりワークショップを開催された。

■**浦部准教授**は, 7月27日, 杉妻会館で行われた「平成23年度 福島県応急仮設住宅等の生活環境改善のための研究会 成果報告会」において「木造仮設住宅の計画特性について」と題して研究成果報告を行った。

■**浦部准教授**は, 8月2日, 郡山市地域福祉計画策定委員会委員を委嘱された。

■**土方准教授**は, 8月6日, 郡山市より建築審査会委員を委嘱され, 会長に選出された。

■**浅里教授**は, 福島県建築安全機構が主催する「高校生が参加する地域防災授業」の一環として「地震のメカニズム」と題する講義を, 9~11月にかけて, 福島工業高校, 郡山北工業高校, 会津工業高校の県内3工業高校で行った。

■**浦部准教授**と**浦部研究室**を含む福島県内2次公

募分ログ仮設住宅建設チームが計画・設計・建設を行った「木造仮設住宅」が, 2012年グッドデザイン賞賞賞【経済産業大臣賞】を受賞した。

■**大佐古和明君**(土方研・M1), **矢吹朋之君**(市岡研・M1), **松永一秀君**, **三村俊裕君**(土方研・4年), **磯野綾介君**, **目黒しおりさん**(市岡研・4年)は, 8月17~19日に福島県石川郡石川町で開催された(株)日本造園学会・関東支部第8回学生デザインワークショップ「テーマ:原発の被害を受けた土地と向き合う」に参加し, その成果を10月13日の日本造園学会東北支部大会・ポスターセッションと11月24日の日本造園学会関東支部大会・学生デザインワークショップ成果発表会で発表した。また, **浦部准教授**は, 8月17日, 講師として「3.11以降の福島の動向と我々の活動」と題して講演を行った。

■**浅里教授**, **土方准教授**, **阿部直人非常勤講師**は, 9月4~6日, 福島県より土木部専門研修の講師を依頼され, 浅里教授が「耐震設計概論」, 土方准教授が「都市のあり方と都市政策」, 阿部非常勤講師が「公共建築設計の考え方」と題して講話された。

教室ニュース

■**若井教授**は, 9月5日, 日本建築学会より東日本大震災調査復興支援本部の委員に任命された。

■**浦部准教授**は, 9月15日, 日本建築学会大会関連行事である「東海地震のBefore-After ~その日に備えたイメージトレーニング~」において, 「避難所や仮設住宅という「一時的な住まい」で何が起きているのか」と題して講演を行った。

■**大山助教**は, 9月22日, 郡山市より郡山市景観づくり審議会委員を委嘱された。

■**出村教授**と**浦部准教授**は, 10月3日, 只見町より, 只見町役場新庁舎+地区センター建築設計管理業務プロポーザル審査委員会委員を委嘱された。

■(株)日本造園学会東北支部大会が, 10月13~14日, 郡山市市民交流プラザで開催され(大会実行委員会委員長土方准教授, 委員市岡講師), **大佐古和明君**(土方研・M1)は, シンポジウムの話題提供として, 関東支部第8回学生デザインワークショップ参加成果作品の報告を行った。

■**土方准教授**は, 10月15日, 福島県より福島県土地収用事業認定審議会委員を委嘱され, 会長に選出された。

■10月19日, せんだいメディアテークで開催された日本建築家協会(JIA)主催第15回東北建築学

生賞で, 13校14学部応募総数34作品中, **中井契太君**(浦部研・4年)の作品「水と暮らす 一つかずはなれず」が奨励賞東北専門新聞連盟賞を受賞された(p5参照)。

■10月24日, 白河市からの依頼により, 平成24年度東北都市景観協議会において, **若井教授**は「守る景観+創る景観~間のデザインと文化~」と題して基調講演をされ, **土方准教授**は「行政と住民を繋ぐ歴史的まちづくり活動」と題してNPOしらかわ建築サポートセンターの事例報告をされた。

■**若井教授**は, 10月25日, 郡山商工会議所主催のUDセミナーにおいて「震災復興におけるUDの役割」と題して講演された。

■**土方准教授**は, 10月26日, 郡山市より郡山市中心市街地活性化推進委員会委員を委嘱され, 委員長に選出された。

■**市岡講師**は, 11月5日, 郡山市より郡山市民公共事業評価審議会委員を再度委嘱された。また, **大矢康隆君**(土方研・4年)は, 公募委員として選出された。

■**佐久間皓惟君**(浦部研・M1), **近藤拓馬君**(浦部研・研究生), **阿部慎也君**(浦部研・4年), **佐藤伸哉君**, **樋口卓史君**(浦部研・3年)の5名は, 「景観開花。2012(課題:未来へつなく防潮堤デザイン)」において, 「壁と生きる通り~3つの壁による防潮堤との付き合い方」を提案し, 11月5日, 最終審査対象5作品に選ばれた(p5参照)。

■**土方准教授**は, 11月12日, 福島県より福島県都市計画審議会委員を委嘱され, 会長代理に選出された。

■**土方准教授**と**阿部純也君**(土方研・M2)は, 11月14日, 郡山市より郡山市中心市街地まちづくりワークショップのアドバイザーを依頼され, 「本二町内会の地域コミュニティの維持と新たなルールづくりに向けて」と題して講話された。

■**松永一秀君**(土方研・4年)は, 11月20日, 郡山市中心市街地活性化シンポジウム「まちなか夢会議のパネルディスカッション「若者のチカラで街を活性化」のパネリストを依頼された。

■**若井教授**は, 11月22~23日, ビッグパレットふくしまで開催された「こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア2012」におけるデザイン賞の審査員を委嘱された。

■**阿部慎也君**と**佐藤雄太君**(浦部研・4年)は, 第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション2012(課題:1個人または1家族が使用する避難シェルターをデザインする)において作品名「応急箱~受け継がれていく思想~」が優秀賞に選定され, 11月27日, ドイツ文化会館OAGホールで開催された授賞式で表彰された(p5参照)。